

## 糸魚川市駅北まちづくり会議（推進会議） 記録

日時	令和元年7月9日（火）13：30～15：00	会場	ヒスイ王国館
件名	1 開 会 2 あいさつ 3 委員紹介 4 駅北まちづくり会議について （1）会議趣旨等について （2）実践会議の立ち上げについて （3）その他 5 意見交換 6 閉 会		
出席者	米田徹 糸魚川市長 糸魚川商工会議所 猪又史博 会頭 糸魚川広域商店街 小坂功 会長 一般社団法人糸魚川市観光協会 佐々木繁雄 事務局長 ぬながわ森林組合 伊藤博昭 業務部長 糸魚川信用組合黒石 孝 理事長 大町区 齋藤伸一 区長 新潟県糸魚川地域振興局 八木威 局長 外部アドバイザー 清水 義次（座長） 外部アドバイザー 西村 浩 （欠席：ひすい農業協同組合 吉原勝廣 組合長）		
<b>【概要】</b> 1 開会 2 あいさつ （米田市長） ※概要 <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年12月22日の大火から、2年6か月が経過し、この4月には駅北復興住宅が完成し、被災地の内外をあわせ、ほとんどの方が生活再建を果たすことができている。</li> <li>・今年度は、にぎわい創出広場、無電柱化などの整備を進める。大火から3年目を迎え、復旧をほぼ終え、復興を着実に進めていく必要がある。</li> <li>・これまでは、安心安全なまちづくりに向けた基盤整備などを進めてきたが、これからは、将来にわたって持続可能な住みよいまちづくりに向けた取組に軸足が移っていく。</li> <li>・糸魚川市が市町村合併して、地区公民館単位で、地域づくりビジョン、地域づくりプランを作ってきた。地域のことは地域で何とかしていくという気持ちが大切。</li> <li>・ときには、北陸新幹線開業に向けて、駅北は市の玄関口として整備してきたが、玄関だけを良くするだけでなく市域全体を考える必要があると説明してきた。</li> <li>・これらの事業を進めていくなかで育まれる地域の「一体感」が重要と必要と考えて</li> </ul>			

おり、これからも同様に考えている。

・皆で課題を乗り越え、作り上げていくことで持続可能なまちになると考えている。時間をかければかけるほど、同じ方向に向かって、駅北まちづくりを進めていけるようにしていきたい。

### 3 委員紹介

(委員) 地域経済活性化に努めており、大火後、会議所を移転してはどうかと検討している。この駅北まちづくり会議が成功するよう祈念している。

(委員) 広域商店街としては、大火後1つの商店街が無くなりました。押上寺町商工連盟が新たに加盟した。にぎわい創出事業というものを展開している。

(委員) 4月からDMO登録法人となった。これからも会員とともに進んでいきたい。

(委員) 復興住宅では糸魚川産材木材を使用してもらった。今後、山林と駅北とどのような関わりをもっていけるのか模索していきたい。

(委員) 金融の本業は金融でなく、地域のために役立つ仕事をしていくことだと言っている。市長から「一体感」という言葉があったが、いくつかの事業を行政とともに進めてきていることが同業種から注目を集めている。自分たちの持っている力をもってお役に立ちたい。

(委員) 被災4区を代表して参加している。やっと生活の基盤を取り戻し、これからどうしていくかを考えられる状況になったと思う。住みやすいまちづくりのために協力していきたい。

(委員) 4月から糸魚川に赴任。最初の仕事が駅北復興住宅の竣工式で、その際に市長が「これからはにぎわいづくり」だとお話しされていたことが印象的だった。少しでもお役に立てればと考えている。

(清水義次アドバイザー) 全国の地方都市では財政難で投資的なお金を使えなくなってきている。今よりもよりよい街になるように継続できる街ができるか。成長時代とは全く違うまちづくりが必要。全国のおもしろいやり方が開発されており関わってきた。後退しない、着実に上にあがっていく形にしたい。にぎわいというあいまいな目標ではなく、具体的な将来像を描くことが大事である。糸魚川の地域資源、例えば森林は油田と考えており、それをどのようにしていけばよいかを考えることが重要。糸魚川の復興の役に立てればと考えている。

(西村浩アドバイザー) 全国で、これからのまちの在り方を、固有の特徴を活かしながら探していく活動をしてきた。糸魚川には、2年前に入り活動してきた。昨年度は、市民会議のアドバイザー、リノベーションスクール@糸魚川のスクールマスターをさせていただき、多くのプレーヤーが自ら行動を起こそうという姿が少しずつ見えてきた。プレーヤーの方々がどうやって糸魚川で暮らし、働くかを実践していくことが大事だと考えており、そういうことを皆さんと考えていきたい。

(事務局) ありがとうございました。ここで、駅北まちづくり会議設置要綱に基づき、座

長の選任をさせていただきたいと存じます。よろしければ、先に事務局案を申し述べさせていただいてもよろしいでしょうか。

—異議なしの声あり—

(事務局) 事務局案といたしまして、座長には、新しい都市経営手法として全国で注目の”リノベーションまちづくり”を進められている外部アドバイザー清水義次さんに就任させていただきたいと考えておりますが、いかがでございましょうか。

—異議なしの声あり—

—外部アドバイザー 清水義次 座長就任—

(事務局) ありがとうございます。清水座長から一言、ご挨拶をお願いします。

(座長) 座長に就かせていただきます清水です。良い糸魚川のまちづくりに向けて率直にご発言させていただきたい。よろしく願いいたします。

(事務局) 清水座長ありがとうございます。それでは、この後は、清水座長から進行をお願いいたします。

#### 4 駅北まちづくり会議について (1) 会議趣旨等について

(座長) それでは、駅北まちづくり推進会議 (1) 会議趣旨について、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 会議趣旨説明 ※概要

- ・ 駅北まちづくり会議設置要綱で基本事項を確認。第1条の設置目的で、復興から新しいまちづくりに向け、官民連携による駅北まちづくりを進めることとしている。

- ・ 第3条の所掌事務は、駅北まちづくり戦略の策定と推進について協議することを明記。第4条の組織は15人以内で会議を構成し、委員任期を2年と規定。第7条では、所掌事務を集中的に意見交換、調査研究させるための実践会議の設置を定め、その中で、実践会議の実行性を担保するための部会を設置できることとしている。

- ・ 駅北まちづくり戦略について、これからは、大火復興から「駅北まちづくり」に向けた新たなステージへ転換。

- ・ 昨年度までは、市民会議やリノベーションスクールを実施し、駅北地域のにぎわいや地域資源の利活用の議論・提案あり、今年度は成果を少しでも実践に移していくための「駅北まちづくり戦略」を策定。

- ・ 駅北まちづくり戦略の内容は、復興計画エリアとその周辺を対象に、まちづくりのプロジェクトとその展開を作成し、実践につなげていくシナリオとする。

- ・ 戦略策定の流れとしては、市民会議やリノベーションスクールで出た提案をベースに、この会議を新設し、いくつかのテーマで議論しながら、戦略を策定

- ・ にぎわいの拠点についても戦略のなかで、その展開シナリオを位置付けたい。

- ・ 戦略を策定する上で、本会議である「駅北まちづくり会議」を設け、会議体として、実践会議と推進会議の二つに分け、実践会議では、テーマごとに検討しながら実践に結びつく戦略案を作り、推進会議では、実践会議で策定された案について検証、承認をしながら、その実践について必要な応援や協力。

- ・会議の委員として、実践会議は、実際に活動を行っている人や団体の方、リノベーションスクールの参加者などを考えている。
- ・戦略は、概ね1年をかけて策定し、順次検証等を行う。事務局は、市と商工会議所。

(座長) ありがとうございます。引き続き(2)実践会議の立ち上げについて、を事務局から説明をお願いします。

## (2) 実践会議の立ち上げについて

### (事務局) ※概要

- ・ 駅北まちづくり戦略の素案を作成し、実践に向けた推進を図る実践会議を設置。
- ・ 実践会議の日程は、8月6日を第1回目として来年の6月までの間、全6回を予定。8月6日の初回は、人口や財政など、市の現状や課題などを知り、第2回から第4回までのテーマを設定、各委員のまちづくりへのご意見等を聞く。
- ・ 第2回目から第4回までは、初回に設定したテーマに基づいて、駅北まちづくりについて議論・検討を進める。令和2年度に入り第5回、第6回を開催し、戦略をまとめる。
- ・ 会議形式は、公開ミーティング型とし、会場は、会議が行われていることが外から見てわかるような開かれた場所で開催したい。
- ・ 実践会議の委員には、実際に駅北で活動を行っている個人や団体の方、リノベーションスクールの参加者など、外部アドバイザーの西村さんを含めて17名で始める。実践会議を進めていくなかで、検討途中でも一緒に検討したい、活動したいという人も追加していく。

(座長) 実践会議について、これまでの経緯などを西村さんから説明をお願いします。

### (西村浩アドバイザー) ※概要

- ・ 実践会議のメンバーでまちづくり戦略の案を作る。それをこの場に提案させていただいて、ご意見をいただき、ぜひ応援してもらいたいと考えている。
- ・ 駅北復興まちづくり計画が平成29年8月に作られている。本会は「復興」という文字がいよいよ消えた会議。復興は続いていくが、復興を超えた本質的な地域の課題に向かい合って戦略を作っていく会議と考えている。
- ・ 大事なことは地域のことは地域で考える。当事者がいかに増えていくかを念頭に置いて検討していく必要がある。
- ・ これまで、市民会議にアドバイザーとして参加、2月にはリノベーションスクールを開催させてもらった。リノベーションスクールでは、民間公園THE PARK、サンドウィッチ、雁木と寺のまちなどが提案され、事業を進めながら、少しずつ手ごたえを感じ進めている。何よりもやっている人が楽しいと思うことが一番。そこでお金も稼げるとなると、仕事にもなり、人も増えてくるということのリノベーションスクールで率先してやっている。
- ・ 実践会議では、リノベーションスクールなどで街に来た人を街の中に定着させていく

戦略にしていくことが必要。糸魚川の未来を自分事として真剣に考え、行動する当事者を増やしていく必要があり、結局のところ、人が大切。若い人達が自信をもって笑顔で豊かな暮らしを作れるか、さらに推進会議はそれをいかに応援していくかがポイント。そして提案事業をいかにお金にしていくかが必要。

- ・提案事業が実現することも大切だが、リノベーションスクールの一番の目的は人材発掘。糸魚川に関わりたいメンバーが増えていき、自ら行動していく。
- ・駅北まちづくり会議は、推進会議と実践会議の両輪で動かなければ、まちで応援される戦略にならない。会議提案は市民主体だが、行政側では庁内委員会を設けて検討していく。
- ・駅北まちづくり会議の内容は、いかに官民連携というフェーズに移っていけるかと考えている。民間と公共の土地は別々のものでなく、そこで、お金を生み出しながら、豊かなものに連携しながら作っていくことが大切。価値を伝えるにはメディアが大切で、それによって地域ブランド力もあがり、人が集まりお金が回っていくプロジェクトを作っていける。これが会議の最終目標と考えている。

## 5 意見交換

(座長) 意見交換に入ります。実践会議が大切なことがわかりました。これからの実践会議の進め方について、ご意見をいただける方は挙手にてご発言ください。

(委員) 現状としてイベントをやると人が集まるが、個店で物を買ってもらえない状況。個店の売り上げがあがってこないとやる気がなくなってくる。実践会議でもなりわいを作っていくが、自分たちと一緒に道を歩むのではないかと心配している。にぎわいと一緒に地元に住むということも必要でないかと考えている。

(座長) 大事なテーマの1つ。新しいことのみが会議の中心になる懸念がある。駅北のなだらかな衰退は大火前から続いており、今営業している店舗は大変貴重な役割を担っている。これを強化する取り組みが必要で、奈良の大和高田市の片塩商店街における取組で、徳光次郎という人の指導によって店舗改善され売上があがった事例がある。実際に長続きする商売のため、現場型マーケティングを行政と一緒にやることをお勧めします。

(米田市長) お客をどのようにつれてくるかということかと思うが、個店のトイレを綺麗に改修して、お客様に開放していくなどの工夫も良いのではないかと。行政も改修に応援していくこともできるのではないかと。

(委員) そのような制度ができれば特別融資を作ることも可能かもしれない。トイレ以外の話になるが、信用組合では、復興エリア内を対象にした少額の地域ファンドを作りたいと考えている。

(座長) リノベーションまちづくりでやっているやり方をお話ししたい。民間が補助金を頼らずに、初期投資は最長5年以内で返す計画をたてることを原則としている。自立型まちづくり方式として、地域の金融機関に特に喜ばれた。最初は少額で面倒との声もあったが、ビジネス規模が徐々に拡大していくのを見て馬鹿にできないと

喜んでいただいた。(財産をお持ちの)年配の方々からファンに参加してもらい、少しでも利回りがつくようなお金の回し方を考えてもらいたいと考えている。

(委員) 実践会議の委員の人はすばらしく期待している。しかしながら、市内の感覚だけでなく、市外の人と意見交換してはどうかと考えている。昭和に大火があった山形県酒田市では、商店街復旧の際に将来を見据える力がなかったことが残念だったと言っていた。少し広い視点で、これからの日本を見据えた議論をしてもらいたい。

(座長) 非常に良いと思う。

(西村浩アドバイザー) 1回目にテーマを考えるが、各回のテーマに精通している人のお話を聞いて、勉強しながら議論していきたい。もう一つは、東京に糸魚川出身で活躍している人が多いので、その人たちに集まってもらい、まちの状況を伝えて来てもらうことも良いのではないかと考えている。その人たちの知見が新たなまちに活かされる。全く関係の無い人だと当事者になれない。

(米田市長) おもしろい。新潟県人会など高齢だが、東京糸魚川会は比較的若い人が多い。

(委員) チャレンジして振り返ることが大切。石のまちとして、石ひろいなど人気があるが、何かを体験できるようなプログラムができないかと期待している。

(委員) 森林が油田という言葉に興味がある。

(座長) 質問があった森林が油田ということに軽く説明したい。

- ・20年位前からドイツを中心に森林資源を活用した新しい地域型産業が育っている。そこでは、ゼロエネルギーハウスが発明され、省エネ技術の開発によって快適な住宅が地場のハウスメーカーで作られ、供給されている。すなわちエネルギーと林業がつながった地域産業によって膨大なお金を地場で循環させることが可能。
- ・山の保全もできる択伐林業とエコハウスの産業化がリンクされて、大都市まで木材パネルを使った住宅が供給されている。
- ・岩手県紫波町では、公共施設再編を契機に産業化を進めたところ、待機児童が増え、町全体の高齢化率がさがり始めている。そのアウトドアセレクトショップでトレイルランの道づくりを3年かけて完成させたことで、山が健康・観光のフィールドになりつつある。海も大事だが、山には大きな可能性がある。

(委員)

- ・質の高い資源が揃っている地域と考えている。内では魅力が低くても、外から見たときの魅力は高い可能性がある。
- ・県内でも商店街が多くあるが、経験してきている方々の話は勉強になる。

閉会